

訪日客取扱高1兆円目標

三菱UFJニコス 電子クーポン配布

三菱UFJニコスはアジアから訪日外国人を呼び込む新事業を4月から始める。同じグループの三菱東京UFJ銀行と連携し、タイのアユタヤ銀行などアジアの子会社や提携銀行のクレジットカード会員に、日本国内の加盟店で使えるクーポンを付与する。井上治夫社長は「2020年に訪日客の取扱高を15年比で数倍となる1兆円に増やす」と新たな目標を明らかにした。

ナニ

訪日客を国内加盟店に電子クーポンで誘導する取り組みは業界初。同社は19通貨に対応した外貨建て決済システムや電子クーポンを使える端末を加盟店に導入しており、

訪日客を国内加盟店に必要の取り込みが可能だと判断した。

地方銀行との連携も強め、「地方向けの訪日ツアーなどに新サービスを組み込む」（井上社長）という。

同社は国内全体のカード取扱高を20年に20兆円に倍増させる計画だ。井上社長は「日銀のマイナス金利政策で現金を引き出す際のコストがより意識されるようになる」と指摘。カード利用が中心の訪日客の増加も加わり、国内でキャッシュレス化の流れが今後加速するとの見方を示した。